
どうやら遊戯王のようです

マカロフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どつやら遊戯王のようです

【Nコード】

N2214Z

【作者名】

マカロフ

【あらすじ】

「初めまして。俺の名前は喜多見健斗です。現在15歳。突然ですが、俺は転生者です。」ある世界で死んだ主人公は、どつやら遊戯王の世界に転生した様です。GXなのにシンクロ、ドローが強い、など見苦しい点があります。それでも構わないという方は、どうか温かく見守ってください。

どうやら転生したようです

皆さん始めまして。俺の名前は喜多見健斗です。現在15歳。

突然ですが、俺は転生者です。そして、ここからが重要なんですが、どうやらここは遊戯王GXの世界らしいです。
アニメ見ておけばよかった

俺が遊戯王の世界に転生したとわかったのは、俺が10歳になった時、唐突にわかった。
というより、10歳になった時に、前世の記憶、死んだときのこと、神なんてものが実在したという事実、その神に遊戯王GXの世界に送られたこと、そんな過去のことを一気に思い出したのだ。
どうでもいいが、あまりの情報量に、頭が痛くなり気絶してしまっ
た。

せつかくの誕生日だったというのに。
まあ、神が転生日プレゼントととして、俺が死ぬときに持ってたカードをこっちの世界に送ってくれたから、そんなのぜんぜん気にならないほど嬉しかったからいいんだけどね。
気がついたときは嬉しさのあまり叫んで、両親に頭痛のショックでくるってしまったんじゃないと、本気で心配されたのは余談だ。

俺は、前世ではかなり遊戯王に熱中していた。

大学生になってもカードショップに行っっては、デュエルしていた。

大会で優勝したこともある。

死んだときも、カードショップに行く途中だったしね。

そのせいか、神が転生先に選んだのが遊戯王GXの世界だったというわけだ。

ここでひとつだけ問題がある。

それはズバリ、俺は遊戯王のアニメ、特にGXに関してほとんど知らない。

神から少し話を聞いたが、

「主人公が遊戯じゃない、だと?」

と、素で言ってしまうほどに壊滅的に知らない。

だから、もう少し詳しく知っている無印の時代にしてくれと頼んだら、

「それじゃつまらんから却下。」

なんて感じであっさりぶつた切られた。畜生…神め!

それはともかく、ようするに俺はこの先何が起こるかまったくもって分からないので、今の内にできる事と言えば、デュエルの腕を磨くことと、この世界の最低限の知識を身に着けるだけしかない。ぶっちゃけると暇なのだ。

神の話によると、今は原作の5年前らしい。

「準備できる時間、5年くらいあげるから、がんばってね。」
なんて言っただのだから間違いない。

今思えば、準備に5年もいらないだろなんてことは明白だったのに…。

神にとっての準備期間長ッ!!

やっぱり死んだ直後だったせいで、冷静に判断出来なかったんだろ
うな。

その言葉を聞いた直後には俺は転生を果たしていた。

冒頭に戻って現在15歳。

そう、あから5年たったのだ。

つまり、やっと、待ちに待った原作開始の日なのだ!!

一言だけ言わせて欲しい。

……長かった!!

ひじょ～～～～に長かった!!

勢いで二言言ってしまうほどに長く、厳しい戦いだった!!

考えても見てくれ。

前世では一応それなりの大学に通っていた一般大学生だった人間が、突然小学生になってみる。

授業はつまらな過ぎるは、周りは訳の分からん年頃のやつらでいっぱいだしで、それはもう本当につらかった。

中学はまだマシだったが、やはり精神的にくるものがあった。

だがしかし、そんな日々ともようやくお別れなのだ!!

5年の間にこの世界にデュエルアカデミアというデュエル好きの俺にはたまらない学校があることを知った俺は、即座にここの試験を受けることを決めた。

そして明日がその試験である。

さあ行くぜ!!俺のターン!!

どうやら転生したようです(後書き)

初めまして。マカロフです。

よろしくお願いします。

とつやら試験のようです

「次、試験番号17番、喜多見健斗」

やっと俺の番が回ってきた。

さっきから待ち遠しくて仕方がなかったんだ。

んっ？何がそんなに待ち遠しいかって？そんなの簡単だ。

ソリットヴィジョンに決まっているだろう！？

今まで色んなモンスターが出てきたり、色んな魔法が使われたり、色んな罠が発動するのを見てきたんだ。

それを自分のデッキでやれる番が来たんだ。

これを喜ばずして、何がデュエルリストか！！

返事をして、指定された位置に立ち、デュエル開始の合図を待つ。

6

「17番、準備はいいか？」

「はい、問題ありません。いつでも大丈夫です。」

「よし。では、ただいまより、試験を開始する。」

番号だけだと囚人みたいだな。そんなことはどうでもいい。

ようやく始まる。

よし、気合入れていこう。

互いに構えて…

「デュエル！！」

デュエルスタートだ！！

健斗 LP：4000
試験官 LP：4000

「先攻、後攻、好きなほうを選べ」

先攻後攻の選択権は受験生である俺にあるようだ。
だったら先攻をもらうことにしよう

「では、先攻をもらいます。俺のターン、ドロー！！」

俺の手札はこうなっている。

- * 『魔轟神グリムロ』
- * 『魔導雑貨商人』
- * 『レベル・ステイラー』
- * 『グローアップバルブ』
- * 『くず鉄のかかし』
- * 『魔轟神獣チャワ』

まあこんなもんだらう。

見てもらえば分かると思うが、俺のデッキは魔轟神デッキである。
型の多様性に富んでいるのが特徴の魔轟神だが、俺の使っている型
は雑貨型魔轟だ。

何でこの型にしたかというところ、この世界では、やたらと攻撃してく
る傾向がある。

それを雑貨やライコウで墓地を肥やして、一気に攻める。

「俺は、モンスターを裏側守備表示でセット！さらに、カードを一枚セットしてターンエンド！」

セットしたのは当然雑貨である。

「私のターン、ドロー！手札から、ゴブリン突撃部隊を召還！ゴブリン突撃部隊にメテオストライクを装備！バトル！ゴブリン突撃部隊で攻撃！」

『ゴブリン突撃部隊』 ATK2300 DEF0 LV4

うーん、喰らっても別に問題ないが、あんまり喰らうと成績さげられそうだしなあ…。

「リバースカードオープン！『くず鉄のかかし』！このカードはフィールド上のモンスター一体を選択して発動する。選択したモンスターを裏側守備表示にする！」

「ちっ！防がれたか！だが、『ゴブリン突撃部隊』は攻撃表示のまま残る！なら、カードを一枚セットしてターンエンドだ。」

雑貨商人はレベル1だからレベル調整にも使えるし、残しておいて損はない。

「俺のターン、ドロー！」

引いたカードは『魔轟神クルス』。

やっと魔轟神らしい手札になってきた。

「俺は、セットされていた『魔導雑貨商人』を反転召喚！このとき、『魔導雑貨商人』の効果発動！デッキから魔法、または罫が出るま

でめくり、手札に加え、めくったカードを墓地に送る！」

『魔導雑貨商人』 ATK200 DEF700 LV1

さあ何が落ちるか。

「自分からデッキを捨てていくとは、バカなことをする」

おいおい、何でデッキが墓地に行く＝悪いことになってんだよ。

まあ、そのせいで油断してくれるんだつたら何も言わないけどね。

墓地に行ったのは

『ハンターライコウ、魔轟神レイヴン、ジャンクシンクロン、魔轟神クシャノ、レベル・ステイラー』だ。

なかなかいい感じに落ちたな。

しかも手札加わったのは『サイクロン』だ。

試験官の伏せカードは恐らく攻撃反応型罠カードだろう。

なら、今の内に破壊しておこう。

違っても損はないしな。

「俺は手札に『サイクロン』を加え、そのまま発動する！」

「くっ！『リアクティブ・アーマー爆発反応装甲』が破壊されたか！」

やっぱり攻撃反応型罠カードだったな。

さあ、ここからが本領発揮だ。

「俺は、墓地の『魔轟神クシャノ』の効果発動！手札の『魔轟神クルス』を捨てて、手札に加える！このとき、『魔轟神クルス』の効果発動！このカードが手札から捨てられたとき、墓地の『魔轟神』と名のついたレベル4以下のモンスター一体を特殊召喚する！来い

！『魔轟神レイヴン』！！』

『魔轟神レイヴン』 ATK1300 DEF1000 LV2

「なにっ！？手札を一枚も減らさずに特殊召喚だど！？しかし私の場には『ゴブリン突撃部隊』がいる！」

「いやいや、まだ通常召喚もしてないんだが…」

「回りも少しざわついている。」

「そんな驚くことでもないだろうに…」。

「さらに俺は、手札の魔轟神グリム口の効果発動！自分フィールド上に、『魔轟神』と名のついたモンスターが存在するとき、手札から墓地に送ること、デッキから、『魔轟神グリム口』以外の『魔轟神』と名のついたモンスター一体を手札に加える！俺は、『魔轟神ソルキウス』を手札に加える！」

さらに、フィールドの『魔轟神レイヴン』の効果発動！一ターンに一度、手札を任意の枚数捨てる事が出来る！その後、このモンスターの攻撃力は、エンドフェイズ時まで、捨てた枚数×400ポイントアップし、レベルも×1アップする！

俺は手札を一枚捨てる。これにより、『魔轟神レイヴン』は攻撃力1700、レベルは3になる！

さらに、墓地の『魔轟神ソルキウス』の効果発動！手札を二枚墓地へ送ることで、墓地から特殊召喚する！現れる！『魔轟神ソルキウス』！！』

『魔轟神レイヴン』 ATK1300 1700 LV2 3

『魔轟神ソルキウス』 ATK2200 DEF2100

「また特殊召喚だど！？だが攻撃力は2200！そっちの方が下だ」

！」

そんなこと分かってますから落ち着きましようよ。
ここからがシンクロを多用する魔轟神の本領なんだからさ。

「それぐらい分かってますよ。続けていきますよ？墓地の『レベル・ステイラー』の効果発動！『魔轟神ソルキウス』のレベルを1つ下げて、墓地から特殊召喚！」

『レベル・ステイラー』 ATK600 DEF0 LV1

「そしてレベル3の『魔轟神レイブン』にレベル5の『魔轟神ソルキウス』、レベル1の『レベル・ステイラー』をチューニング！」

「チューニングだと！？なんなんだそれは？」

えっ！？知らないの！？

俺はてつきりシンクロはGXの時代から導入されるもんだとばかり思っていたんだが…。

事実、無印時代のときは、デュエルにシンクロは使ったことはなかった。

このデュエルで5年ぶりだったのだから。

やっぱりアニメを見ておくべきだった…。

しかしシンクロしてしまったものはしょうがない。

このまま突っ切ってやる！！

「古の封印をとき、最古にして最強の龍よ、今こそ、その力を現せ！
シンクロ召喚！覚醒せよ！『氷結界の龍 トリシューラ』！！」

『氷結界の龍 トリシューラ』 ATK2700 DEF2000

うん、ヤバい。

何がヤバいか。

それはだな……ソリットヴィジョンヤベ〜!!

なんだこのトリシューラかつこよすぎんだろ、おい!

すげ〜すげ〜すげ〜すげ〜すげ〜すg…

おっと、あまりのかつこよさにトリップしかけた。

あぶねえ、あぶねえ。

「こ、攻撃力2700…。くつだがこの程度なら問題ない。」

勝手に進まないください。

トリシューラをただの2700のモンスターにしないでください。

これからが重要なんですよ。

「ちよつと気が早いですよ。『氷結界の龍 トリシューラ』の効果発動!このカードのシンクロ召喚に成功したとき、相手の手札・フィールド・墓地のカードをそれぞれ一枚ずつゲームから除外することが出来る!」

「な、なんだその反則じみた効果は!?!」

「まあ確かに反則気味ですが、効果は受けてもらいますよ。墓地の『リアクティブ・アーマー』
『爆裂反応装甲』、フィールドの『ゴブリン突撃部隊』、手札をランダムに一枚除外します!」

「くつ、私のフィールドがから空きになってしまった…」

やっぱりトリシューラ最高だな。

強いし、かつこいいし、価値高いし。

「じゃあ終わりにしましょうか。墓地の『レベル・ステイラー』の効果発動！『氷結界の龍 トリシューラ』のレベルを2つ下げろ！『レベル・ステイラー』を2体特殊召喚！
『レベル・ステイラー』2体でダイレクトアタック！さらに『氷結界の龍 トリシューラ』でダイレクトアタック！止めだ！『魔導雑貨商人』でダイレクトアタック！！」

試験官 LP4000 2800 1000 0

よし！！止めを雑貨商人でさすところまで完璧だったな。
一度やってみたかったんだよね、雑貨商人で止め。
やられた方はたまったもんじゃないだろうけどね。
なにせ今やられた試験官は何かもえつきてるしね。

「はっ！いい、いかん、いかん。これで試験は終了だ。合否は後日連絡する。……落ちるとは考えられないがな。とにかく、いいデュエルだった。シンクロ召喚とやらも見れたしな。」
「はい。ありがとうございました。」

確かに、あれで落ちるはずはないだろう。
しかしシンクロ召喚が知られていないとは思わなかった。
デッキを変える必要が出て来るかもしれないな。
まあ、試験会場で派手に使っちゃまった時点で、気にしてもしょうがないんだけどね。
なるようになるだろう。

やじやら試験のよじです (後書き)

うーん…難しい。

遊戯王って書かないと伝わらないこと多いですからね…。

これからもがんばるので、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2214z/>

どうやら遊戯王のようです

2011年12月8日02時57分発行